

素敵な駅をつくる産学協同「八幡前駅プロジェクト」

# 同中生の活動が京都新聞で紹介されました！

京都新聞 2018年11月1日付 朝刊に掲載

## カボチャ福笑い 仮装パレード…

### 市内でハロウィン催し

ハロウィンの31日、京都市内でも関連の催しが各地であった。(24面参照)

左京区の叡山電鉄八幡前駅ホームでは、駅「行事が大好きで、今近くの同志社中の生徒回を考えた。子ども向けにイベントを開いた。子どもたちは、仮装したお兄さんやお姉さんたちに迎えられ、ゲームなどをして楽しんだ。同駅の活性化に取り組み、同中の生徒有志が初めて企画。駅にやって来た子どもたちは、チョコレートやクッキーを受け取り、水槽に浮かべたリンゴをくわえるゲームや、カボチャの福笑いなどを楽しんで遊んだ。同中3年

中京区の京都三条会商店街では、地元のごま保青團の園児たちが仮装パレードを行った。2〜5歳の約60人が、米国の有名コーヒー店のカップなどを模した手作りの衣装に身を包み、練り歩いた。「ハッピーハロウィン！」と声をそろえて



①同志社中の生徒たちとカボチャの福笑いをして遊ぶ子ども(京都市左京区・叡山電鉄八幡前駅) ②手作りの衣装を着て商店街を歩き、お菓子をもらって喜ぶ園児たち(京都市中京区・京都三条会商店街)

(加藤華江原田輝)

中学生時代から社会・地域・企業とつながる学びを経験する取り組みとして、叡山電車との産学協同「八幡前駅プロジェクト」があります。本校最寄駅の一つである叡電八幡前駅を、活気を取り戻した素敵な駅にしたい。そうテーマを掲げて、これまで7年間8回のメンバーチェンジを経て、有志の生徒たちと叡山電車の社員の方々、そして地域の方々との連携をしながら、「駅ホーム手すりの塗装」「クリスマスイルミネーション」「駅の全面改装」「マスコットキャラクター“ハト駅長”の開発」「旧チャペルイスの寄贈」「パン屋さんとのコラボ商品“こいくるパン”開発」など数多くの企画を実現し、駅づくりのムーブメントを起こしてきました。

この秋は新たに、『“ココアツ”な八幡前駅(心が熱くなる/ココにあつまる)』をコンセプトに、「駅でのハロウィンイベント」を実施しました。その様子が京都新聞に取材され、朝刊に掲載されましたのでご紹介いたします。

PBL(Problem Based Learning)やアントレプレナーシップ教育も注目される今、京都の街に根差した本プロジェクトは、中学生自らが主体的に活動するスタイルを重視した運営を基本に、実社会や企業とコラボレーションする産学協同を実践しながら、未来のイノベーターを育てる学びを創り出しています。

ますます注目を集める「八幡前駅プロジェクト」。今後の活動にもぜひご注目ください。